あゆみ速報
原研労組中執ニュース
No.4821(62-24)
2011.3.10(木)

原子力平和利用三原則ー公開・民主・自主ーを守ろう
日本原子力研究開発機構労働組合
〒319-1106　茨城県那珂郡東海村白方白根2-4　Tel. 029 (282) 5413, 5414　Fax. 029 (284) 0568

回覧				

第 100 回臨時大会開催

３月４日㈮、東海村の村松コミュニティセンターで第 100 回臨時大会を開催しました。大会で出された意見、質問、大会決議等を紹介します。

代議員：原科研の夜間食堂で食事の提供がなくなるのでは？　３直の人が利用しているなら、問題ではないのか？　一方的に廃止しようとしているのではないか？

中執：機構との意見交換があり、利用者は約 20 名。半数は警備員で、あとは権現山寮で権利を受けている人と一般利用者。原科研での配膳は止めるが真砂寮で提供する。直めしを止めるとは聞いていない。週末の扱いと同じになり、一般の人も真砂寮での提供になる。

代議員：賃金に関して人事院が廃止の方向との新聞記事があった。廃止したら機構は何を基準にするのだろう。また、定年延長になると賃金が上がらなくなる。新人が入ってこなくなる。人件費も増やさなければならないのか、機構の方針はどうなのか。

中執：人勧がなくなった場合、公務員は労使交渉で決まると言われている。機構からはこれについて回答はない。どうしていいのか分からないのが本音のようだ。機構は、これが自分たちがあるべき賃金だと根拠を出すべきであるが、せいぜい公務員に比べて高くないとの回答しかできないのではないか？　定年延長については、何も言ってこない。公務員は 50 代後半から給料を減らす方向だが、機構の態度ははっきりしていない。定年延長については、機構は導入に否定的ではないが、具体的な提案は未だない。定年延長すると嘱託職員との関係はどうなるか。制度の切り替りの中でいろいろあるだろうが、61 歳で常勤嘱託職員の賃金にはならないだろう。

代議員：研究問題に関して労組の活動が見えない。長いレンジで取組んでもらいたい。例えばもんじゅ。よその問題ではなく機構の汚点になる。機構には、我々に気持ちよく働いてもらおうという考えがないのではではないか。リシテアの ON・OFF ボタン操作は何のためか？　労基署に指摘されたサービス残業のトバッチリで時間管理が必要になったようで、元々の原因は機構の労務管理の誤りからきているらしい。ゴミの分別については、あそこまで細かくやる理由が分からない。給与明細の通知方法の変更も一方的なやり方だ。文書も人に物を頼む書き方になっていない。何かこの組織は終わりかなとも思える。人事評価制度についても、能力のある人をキチンと評価していない気がする。

代議員：何のため分からない報告書の作成が多い。上司の説明責任のためなのだろうか？　組織の体面のために下に回してくる。下を、現場を、援護するようにやって欲しい。

代議員：駐車場使用料金、もんじゅ寮だけなぜ半額なのか。もんじゅ寮は僻地にあるからか？　もんじゅ寮だけというのが異様に感じる。

中執：これは最近になって追加された。緊急時の対応という以外、明確な回答は得られていない。緊急時対応というならもんじゅだけではないはず。何か言えない理由があるのだろう。全ての住宅・寮に対して緊急時対応の必要性を考慮してもらうべきだと考えている。

代議員：組合活動について機構と正式に話し合うべきではないか。指名ストライキと言うやり方は野蛮ではないか。旧原研時代のやり方をただ引き継いだだけではないか。正当なやり方を検討するべきだと思う。

中執：ストライキと言うやり方でない方法も機構と交渉していく。

原研労組第 100 回臨時大会決議

民主党中心の連立政権発足から１年半が過ぎ、そして、統合・独立行政法人化から約５年半が経過する中で第 100 回臨時大会が開催されました。その間、政府による「事業仕分け」の対象として、あるいは「独立行政法人見直し」の名の下に機構の人員と予算の大幅削減が強行され続けています。一方で業務の拡大・安全関係の負担増加・競争的資金獲得の拡大などのため過重労働が広がっており、施設・設備の維持・管理・安全確保、研究開発、技術開発などに必要な予算の慢性的な不足が続いています。もんじゅでは昨年春に試験運転を再開したものの、更なるトラブルにより長期停止を余儀なくされています。また、昨年春より福利厚生の大幅な見直しが相次いでおり、真に働きやすい職場からの乖離には目を覆いたくなるほどです。

原研労組は、明るく働き甲斐のある職場をめざして、以下の運動を進めます。

賃金の大幅引き上げと格差是正、諸手当の引き上げと新設、福利厚生の維持・改善、時間短縮･休日増加、健康管理制度の充実、天下りの禁止、必要な人員と予算の確保、配置転換・出向に対する同意の厳格化、セクハラ・パワハラの撲滅、メンタルヘルス不調をはじめとする精神疾患者の原因調査・対策、定年延長・継続雇用制度・安定した雇用の充実、サービス超勤の撲滅、交替勤務者の健康管理、安易な下請け化の禁止、機構の政治的な中立性、労働組合・組合員に対する差別禁止、原子力ユニオンと均等な便宜供与、研究環境の充実、学会発表・発言の自由、福利厚生に顕著な一方的制度変更の禁止、正常な労使関係の確立、組合員加入促進、科学技術の平和利用の推進など。

原研労組は、組合員はもちろん、職員の声を集め、職場の世論を背景に、言うべきことをきちんと主張し運動してきました。これからもひとつずつ問題を解決し、働き甲斐があり国民から信頼される職場をめざして運動していくことを決議します。

2011年3月4日
日本原子力研究開発機構労働組合　第100回臨時大会

第 100 回臨時大会スローガン

一　原子力平和利用三原則を厳守させよう
一　独立行政法人見直しを口実にした賃金と労働条件の切り下げをやめさせよう
一　必要な予算と定年制職員の補充を求め、過重労働をなくそう
一　「成果主義」に反対し、人事差別是正をかちとろう
一　民主的な職場運営を進めよう
一　研究機関として、あるべき職場の姿を議論しよう
一　新しい組合員を迎えて、活力ある労働組合をつくろう
一　セクハラ・パワハラとメンタルヘルス不調の起きない職場にしよう

窓口交渉報告（構内食堂利用料金の値上げについて）

3 月 3 日の窓口交渉で提案された食堂利用料金の値上げに関する説明の概要は以下のとおりです。

6拠点8食堂（東海原科研、東海核サ研×2、大洗×2、那珂、高崎、関西）の契約が終了し、契約先である日国サービス株式会社から提示された、平成23年度食堂運営に関する昼食共通メニューの販売価格は下表のとおりです。

ラーメンについては、醤油味、塩味等、計4種類を提供する（ただし、毎日4種類全て供されるわけではない。日によって替わる）。そば・うどんのトッピング及び自由食は各拠点の個別契約となります。

なお、販売価格は職員料金であり、職員以外の方への販売価格は10%程度高い料金になるとのことです。

メニュー	提供内容	販売価格（消費税込み）	備考
定食	主菜、汁物、ライス	４３０円	小鉢は別売可
	小鉢	５０円	
カレーライス	カレーライス	３５０円	汁物は別売可
	汁物	３０円	
かけそば・かけうどん		２８０円	
ラーメン		３８０円	各種共通価格

２拠点（むつ・六ヶ所、人形峠・敦賀）については、まだ提案できる状況にないということです。

〜〜

個人署名にご協力下さい。

●特殊法人労連等から以下の個人署名の協力要請がありました。署名用紙は支部・分会を通じて配布します。原研労の一次締切りを、3月末日とします。ご協力をお願いします。

1．TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）へ参加せず、雇用拡充と地域経済を活性化させ、食料自給率の向上政策を求める請願署名
2．衆議院比例定数削減に反対し、民意を反映する制度への改善を求める請願書
3．〜「賃下げの悪循環を招き、憲法に反する道理なき賃下げは許せません〜
　公務員賃金の引き下げに反対する要求署名
4．安全でゆきとどいた医療・介護を実現する国会請願署名
5．最低賃金 1,000 円の実現と　中小企業支援の拡充を求める国会請願署名
6．労働者派遣法の早期抜本改正と雇用の安定を求める請願
8．日航の不当解雇撤回を求める請願

原研労は、憲法フェスティバルに賛同し参加してきました。
今年も5月3日に開催されます。以下は、プレ企画の案内です。
是非ご参加下さい。

5/3憲法フェスティバル in はなみずき を 成功させるプレ企画

講演と映画の夕

劇映画 沖縄

第一部（一時間十五分）「一坪たりともわたすまい」

米軍による土地収奪に
民族の怒りを真正面から
ぶつけた渾身作!!

戦後、沖縄は太平洋のカナメ石としてアメリカ軍政下に置かれていました。この映画は、沖縄県民の本土復帰への闘いが大きなうねりとなって広がる中、復帰前の1969年に、二部作として製作上映された作品です。

今回上映するのは、その第一部「一坪たりともわたすまい」です。

ものがたり

舞台は1955年（昭和30年）の沖縄。アメリカに土地を奪われた島袋三郎（地井武男）は、「アメリカのものを盗むのは戦果だ」を生活哲学としている男だった。三郎は仲間の清（石津康彦）と基地周辺の米軍物資を物色中、ハーフの亘（トニー和田）とその姉、玉那覇朋子（佐々木愛）を知った。

米軍基地拡張に伴う平川部落の強制接収が米軍の威嚇射撃で始まった。平川土地を守る会の古堅秀定（中村翫右衛門）は、銃を突きつけられながらも身体を張って激しく抵抗する。

やがて演習が始まり、朋子の祖母カマド（飯田蝶子）が戦闘機の機関銃弾を受けて死んだ。だが、米軍は何の補償も与えなかった。カマドの葬式の日、朋子は「お婆はお爺のところへ連れて行く」と言い張った。祖父の墓も軍用地になっていた。白旗ののぼりをたてててカマドの葬列は続く。それは抗議の列でもあった。

それから間もなく農民たちの闘いは全沖縄の闘いへと拡がっていった。

◆出演／佐々木愛・地井武男・中村翫右衛門
　　　　飯田蝶子・加藤嘉・鈴木光枝・他

◆製作／山本薩夫・伊藤武郎

◆脚本・監督／武田　敦

◆製作／劇映画「沖縄」製作上映委員会

3．12（土） 県民文化センター小ホール

時間 ①19:00〜講演 ②19:30〜「沖縄」上映（20:50閉会予定）

参加料金 ¥1,000
《当日お支払いください》

《講演》千坂　純 氏（日本平和委員会事務局長）
「**沖縄の基地問題は今！**」

■主催／2011憲法フェスティバル実行委員会（問い合わせ先／０２９－２３１－４５５５）
■配給／茨城映画センター（℡０２９－２２６－３１５６）